

2012

平成 24 年 12 月 発行



J・A・C

公益社団法人

日本山岳会千葉支部

千葉支部だより

発行者 篠崎仁

編集者 結城純一

(第 21 号)

全国支部懇談会 九十九里で開催



秋の房総路へ、ようこそ。日本山岳会が公益社団法人へ移行して初めての「全国支部懇談会」が10月20、21日の両日、太平洋の豪快な波音の聞こえる九十九里町を会場に行われた。28回目を迎え、北海道から九州まで23支部より200人近い多くの山の仲間たちが集まった。

秋晴れに恵まれた初日、国民宿舎サンライズ九十九里を会場に、記念講演や歓迎の郷土芸能が行われた。

県立中央博物館の中村俊彦副館長が「房総の自然と里山里海」をテーマに「千葉県は房総の沖合いで黒潮と親潮がぶつかり、サケは世界の南限。サンゴ礁は世界の北限。陸でも南からの常緑広葉樹林帯と北の落葉広葉

樹林帯の移行部にあたり、南北の動植物が出会う多様な生物相、温かな気候と恵まれた水条件、平坦な地形に肥沃な土壌。人が生きる自然条件としては、他に類例を見ない豊かさだ」と話した。



九十九里町の郷土芸能も参加者の目を楽しませた。地元の「西野獅子連」が出演。威勢の良いお囃子に合わせて、小学生による獅子舞や女性グループによる手踊りが披露され、会場から盛んな拍手を浴びていた。

また、6月の第一日曜日を『山の日』にする運動を進めている山岳五団体を代表して、「山の日」制定協議会代表幹事の成川隆顕さんから「地元で根付いた活動を展開している日本山岳会の31支部が、この運動に積極的に参加してほしい」と強い要請があった

夕方からはお楽しみの懇親会。篠崎仁支部長が「公益社団法人に移行後、初めての全国支部懇であり、千葉支部が発足して5周年を迎えた記念すべき年に、当地で開催できたことを喜んでいきます」とあいさつ。

尾上昇日本山岳会会長は「この日のために準備してくれた千葉支部に感謝します。高齢化で山岳会の会員も減少している現状だが、会を衰えさせないためにも会員増は必要だ」と会員数の拡大を訴えた。また、来賓の川島伸也九十九里町長は「九十九里町は昔からイワ

シで栄えた町。大震災での津波や夏場のレジャーの多様化で客足は遠のいたが、皆さんが町の良いところを全国にPRしてくれれば、昔のような活気が戻ってくるはず」と期待を込めた。

ステージには全国各支部から運び込まれたお祝いの酒が並ぶ。地酒や地ビールを差し入れてくれた前知事の堂本暁子さんが「皆さんを歓迎します」と乾杯。宴会に移った。



にぎやかな宴席では、宮崎支部の皆さんが、宮崎県北地方に伝わる「延岡ばんば踊り」という盆踊りを披露。千葉県のマスコットキャラクター「チーバ君」人形やTシャツなどの景品が当たるビンゴゲームも行われた。

(三木 雄三)



●砂浜のカニに大はしゃぎ

翌朝、太平洋の彼方のやみが、次第にオレンジ色に染まる。やがてまぶしい光の線が水平に走った直後、海の上のもやの中からみずみずしい朱色の太陽が顔を出した。バイキングの朝食を済ませ、「海グループ」と「山グループ」に分かれて出発した。



広大な砂浜を歩く「海グループ」。若者たちのサーフィンを眺めながら前知事の堂本さんも元気いっぱい歩く。海岸では漁を楽しむ人たちがたくさんいた。ピンと伸びた綱を引くと、

カニが何匹も掛かっていた。甲羅に「H」の模様があり、聞くと「から揚げにするとうまいんだ。持っていか」と教えてくれた。波が寄せ、引くたびに小さなカニが砂の上を走る。「可愛いなー」と参加者も大はしゃぎだった。

片貝漁港で一等三角点を見学して昼食後はコスモスが咲く作田川に沿って歩き、日本地図の生みの親・伊能忠敬の誕生の地へ。

ここで伊能忠敬研究会代表で茨城支部長の星埜由尚さんから「忠敬は49歳で隠居。江戸に出て本格的に天文学などを学んだが、もともと小さい頃から勉強が好きだったようだ」とミニ講話を聞いた。

●キノコが大収穫

「山グループ」はサンライズ九十九里からバスで約1時間、長南町の野見金公園から9班に分かれて順次スタート。まずはコートピア笠森の展望台に上がる。標高二百メートルにも満たないのに以外に森が深く、タブやスダジイの照葉樹林独特の景観に参加者一同感嘆しきりである。ここから房総半島を太平洋と東京湾に分ける分水嶺上の尾根を北上する。このコースは関東ふれあいの道の一部で、「観音様のみち」と命名されているが、稜線上のコースはほとんど森林に覆われて「笠森グリーンルート」とも呼ばれている。途中キノコが豊富で、キノコに詳しい会員は大収穫を楽しんでいた。



約2時間30分で笠森観音に到着。長南町教育委員会の学芸員から寺の歴史、国の重要文化財になっている「四方懸造」という独特の構造の観音堂、国指定天然記念物「笠森寺自然林」などの解説を受ける。境内で昼食後再びバスに乗りサンライズ九十九里に戻った。

汗と感動のくぬぎ山



期 日 2012年9月8日

参加者 小沢けい子、梶田義弘・天兵、黒田正雄、香高真奈美・ふみな、櫻田直克、杉本正夫、大悟法雄作、高橋正彦、吹野義憲、三木雄三、柳川しげよ、矢野賢二、山口文嗣、湯下正子、若林邦生
以上 23 名

9月8日、曇り。小田急電鉄の渋沢駅に参加者17人の全員が揃った。駅前ロータリーからバスに乗り込んだのは、われわれと他に2、3人だけ。残暑が厳しく、低山は敬遠されがちだ。今回の見どころは、登山道にあるグリーン・タフ(緑色凝灰岩)の見学。そして晴れていれば、山頂からの眺望だ。

登山口の大倉に到着したのは午前9時30分。今回が初参加という新しい会友もいるため、さっそく自己紹介。ベテランに加え、20代の若者が2名参加するなど、新鮮さを感じた。

秦野ビジターセンターをスタートしてしばらくは住宅地の中を歩く。私の住んでいる市原市と違い、地元の人々は毎日丹沢を見ながら生活できるなんて羨ましいなあ…と思った。やがて西山林道に入る。数日前に丹沢周辺は大雨が降ったためか、林道が濡れてヤマビルが目立つ。ここで参加した女性が、早々にヤマビルの洗礼を受けてしまった。

やがて、四十八瀬川の沢を越えたあたりに今回のメインイベント『グリーン・タフ』の露頭が現われた。ここで三木リーダーからグリーン・タフについて説明があつた。

難しいことは省略するが、その丹沢には、かつての海底火山の噴出物が1万mを超える厚さで積み重なっていて、その岩石が『グリーン・タフ』(緑色凝灰岩)と呼ばれているのだそうだ。三木さんが「600万年前に関東山地と丹沢山地がぶつかった現場がここです。さあ、みなさん実際に触ってみて…」。参加者はただ感心するばかり。ちょっとした地学講座を終えると、後沢乗越(のっこし)ねの急坂だ。益々汗がしたり落ちる。この苦労のあと昼食となり、やっと休憩できた。それにしても今回は暑さのためバテ気味であった。尾根に出て、次は栗の木洞(くりのきどう)の急登が我々をいじめる。

やがて、くぬぎ山(810m)だ。普段の行いが良いのだろう。雲が切れ、光が差して青空が見えた。カヤトが広がるのんびりできる山頂からは房総、三浦半島、江ノ島、そして伊豆大島が一望できた。ここで会員の大悟法さんが100円ショップで購入できるホイッスル、ペンライト、手鏡を使った山での遭難対策が披露され、その必要性について改めて勉強させられた。

(吹野 義憲)

紅葉の大羽山



期 日 2012年11月23日(勤労感謝の日)

参加者 大浦陽子、折田幸一、香高真奈美・ふみな、梶田義弘・天兵、金子有美子、黒田正雄、大悟法雄作、高橋琢子、三木雄三、柳川しげよ、矢野賢二、山口文嗣、山崎完治、若林邦生 (敬称略)

山を歩く計画で、天気予報は大事には違いないが、外れて良かったということもある。

予報は70%で雨。朝7時半、新宿駅のホームに参加者が集まった。「雨の具合でコースの変更もあり得ます」と説明し、ホリデー快速「奥多摩号」に乗り込んだ。

終点の武蔵五日市駅からは9時出発の西東京バスで登山口に向かう。山深い檜原村は島を除き、東京都では唯一の村。かつては炭を生産し、五日市へと運び出した。

村役場を過ぎると、秋川は北秋川と南秋川とに分かれる。わたしたちの乗った数馬行きバスは南秋川に沿って走る。雲の切れ目から薄日が差し込んだ。「わーっ、きれい」。バスの中にもぎやかだ。これから登る笹尾根の紅葉がきれいだ。

浅間尾根登山口で下車。10時、歩き始める。出だしは急だが、尾根に乗ると緩やかになってくる。途中、林を間伐してシイタケを栽培していた。山が荒れないようにと地元の人たちが栽培しているのだと聞いた。

歩き始めて1時間半、大羽根山(992m)に着いた。三頭山、御前山、そして大岳山と「奥多摩

三山」の役者が顔をそろえて並ぶ。檜原村は、向こう側の浅間尾根と、こちら側の笹尾根に挟まれたちょうど谷底にある。だから、下を歩いていると空が狭い。しかし、その村を包む紅葉は、朱色、紅色、鮮やかな黄色、だいたい色、明るいあみず色、濃い金茶色、辛子色などの衣をまとい、風がしめった枯れ葉のにおいを運んできた。

昼食を済ませ、笹尾根の数馬峠は午後1時。権現山に代表される上野原の山や丹沢を眺め、お目当ての数馬温泉へと下る。

奥多摩に詳しい黒田さんに話を聞いた。「一口に奥多摩の良さは何ですか」「何と言っても自然林でしょうね。奥多摩は東京都の水源林なんです。水源監視の道が山腹にたくさんあって、いつまで歩いても山頂に着かないなんていう笑い話もありますよ」。

とうとう雨は降らなかった。日ごろのおこないに感謝。そして秋川の流れを振り返り、また振り返り、帰りのバスに乗った。

(三木 雄三)

ギリシャ・オリンポス山とパルナッソス山の旅

3年前、三支部懇親会で筑波山に行った時、登りの途中で篠崎支部長と小疇先生と3人で、ギリシャのオリンポスに登ってみたいという話がでて、おもしろそうですね、いつか行きましょうか。と気軽に言ったのが今年実現することになった。そして、地理地質の権威小疇先生、上智大のギリシャ哲学の O 先生、九州産業大の観光学の Y 先生が加わり、学術的な色が濃くなって来、友人が加わり、最終的には男、女4名ずつの8人で出かけることになった。

8/20 成田発 13:00、ミュンヘン経由でギリシャ北部のテサロニキ 22:30 着。6 時間の時差なので眠い。ホテルについてすぐ寝る。

8/21 テサロニキは聖書にもよく出てくる有名な古代都市なので、朝のうちにとどこか見てこようと思っていたら、ガイドがしっかり計画をしてくれていて、次々要領よく回ってくれた。特にガレリウス凱旋門は古代の兵士達が行進して来る様子が偲ばれる感慨深いものがあった。昼食は海辺のシーフードレストランで初めてのギリシャ料理をいただき、一路オリンポスの麓のリトホロへ向かう。左手にエーゲ海、右前方に明日登るオリンポスの山が連なって見えて来る。調べるまでオリンポス山という山が存在すると思っていたら、赤城山と同じでオリンポス山系の山の総称で、ひとつひとつ山の名前がしっかりついているのである。何ごとも思い込みではなく、きちんと調べなくては。

8/22 リトホロ発 8:45。ゴルトシア登山口(1140m)まで車で行く。今日は標高差 1500mの一番きつい日程。山をあまり歩かない人達もいるので、9:25 ゆっくりスタート。山の中は私がトップをやることに決めてあるので、様子を見ながら森林帯を進んでいると、日本の奥多摩を歩いているような気分になってくる。しかし、だんだんブナ林に囲まれる様になり、鞍部(1720m)で昼食。やっと3分の1上がったことになるが、時間的には予定より大分遅れている。陽射しが強いので木陰に入ると、湿度が低いのでカラッとしている。牧羊小屋があったりして、だんだん日本とは様子が異なって、森林限界(2150m)を出ると振り返ればエーゲ海が見えるようになり、やはりギリシャの山と言う気がしてくる。しかし、道はしっかりしているが1日目でも標高差もあることから、ペースがなかなかあがらない。2476mの三角点を過ぎ(17:00)、やっと目指すオリンポスの山々が見えてきた。ここから馬の背状の尾根道を進みプラトウに出ると、最高峰ミティカスの麓にクリストス・カカロス小屋がちょこんとのっかっている。O 先生は今までの疲れも吹っ飛んだように、「あの頂きからゼウスが下りてきて、この台地で神々を集めて話し合ったんだと思う。」と感激の面持ち。19:00 到着ですぐ日没。まあ明るいうちに着けて良かった。

8/23 プラトウの上にあるので、小屋からの朝日は遮るものがなく気持ちよい。8:00 出発。ギザギザの半楕円形のような形のミティカスの下(東面北側圏谷壁)をトラバースして東尾根(2750m)を越え、今度は南側圏をトラバースしてミティカスの裏側に出る。岩登りに適する岸壁がそそりたって上の方に人が見える。私達は真っ直ぐにのびた急登の岩屑斜面を登りながら、小畦先生に、回りの地形や岩石について質問するといろいろ説明して下さり、納得することばかり。なんだか学生に戻ったような気分。スカラ(2866m)に 11:40 到着。東側の 500m の壁は氷蝕岸壁というのだそう。スコリーオ(2905m)頂上で昼食。もうここからは下りのみということで皆ホッとして景色を楽しむ余裕がでてきた。遠くにはエーゲ海が見え、やはりギリシャなのだと思う。13:00 広い尾根を下り、見上げると昨日からのルートが遠くなってい

き、だんだん樹林帯に近ずき、16:20 スピリオス・アガピトス小屋(2030m)着。こちらのルートで登ってくる人が多く、小屋も石造の快適なもので、オーナーは日本語を少し話し、ステキな女性だ。今日も8時間行動になった。

8/24 8:40 小屋発。少し行くと涸れ沢に沿って歩くようになる。石灰石が多いため水は全部地下に沁みていきもっと下に行かなければ地表に出てこないとのこと。後ろを見ると小畦先生はいつもあちらこちらから写真をとるために動き回っている。他の人の倍くらい歩いているのではないだろうか。そして、私達の質問に分るように講義して下さるのだから忙しい。13:20 プリオニア登山口着。ここからは溪谷になり水を見ながら僧院(850m)まで歩く。途中落差 10m 程の滝で一休み。こちらの人にとっては貴重な水辺のようだ。15:00 僧院から観光地として有名なリトホロへ。

8/25 車で一路南下メテオラへ。

8/26 岩峰上にある「007」の映画でも有名になった修道院や岸壁の修行地、教会などを見学。



8/26 車でカランバカの聖堂、16世紀建造の橋を見学。またガイドの故郷にまわったり、レオニダスの像がある古戦場など、予定外のところに案内してもらった。この古戦場に

〇先生は、ここに来た事がない大感激。その後パルナツソス山麓のリゾート地アラホヴァへ。

8/27 8:00 車でパルナツソス山地に出発。スキー場に駐車し(2100m)9:30 出発。ゲレンデをショートカットし 10:40(2456m)頂上着。360度の眺望を楽しむ。

8/28 アテネに移動し、教科書で見たことのあるアクロポリスの大きさに古代人の凄さを実感。夕方スニオン岬でポセイドン宮殿跡で夕日を眺めながら、海辺で最後の夕食。

ギリシャの北から南まで車で縦断しながら山に登り、遺跡をまわり、しかも大学の先生方の講義つきという贅沢な旅は、内容が満載のすばらしい旅でした。

(坂上光恵)

千葉支部自然観察会 地震隆起のあとをたどる

房総半島の早い春を感じながら、千葉県の地質の歴史に触れてみませんか？コースはきついところもなく、また途中一部バスを使用しますので、どなたでも参加頂けると思います。

地形学がご専門の、明治大学の小疇尚名誉教授が同行されますので、専門家のお話を聴きながら現地を歩くことができます。千葉県への理解を深めるチャンスです。

ルート 館山市岡沼 沼の珊瑚礁 野島崎 長尾川河口付近
日時 2013年2月16日(土)
集合 10時10分館山駅 ③バス停前(10時15分のバスに乗車)
解散 17時頃館山駅
申し込み問い合わせ 鈴木

鎌倉アルプス散策のご案内



通称「鎌倉アルプス」の正式名称は、「天園ハイキングコース」です。そんなことはともかく、北鎌倉駅から歩ける手軽なコースで、天候に恵まれれば富士山や相模湖を見渡すことができる眺望が楽しみです。しっかりと自然を満喫できる登山道があり、鎌倉の街並みやショッピングも同時に楽しめます。「銭洗い弁財天」でお金を洗うと、御利益があるとかで、女性に人気のスポットです。遠足の定番コースになっている「大仏さま」まで足を延ばせば、あとは「江ノ電」に乗って帰るだけです。だれでも歩ける「スーパー低山」なので、お友だちを誘ってご参加されても結構です。

場 所 通称「鎌倉アルプス」天園ハイキングコース
期 日 2013年2月23日(土)
集 合 JR 北鎌倉駅 午前10時までに集合

概 略 北鎌倉駅～半僧坊～大平山(展望台・昼食)～瑞泉寺～鶴ヶ岡八幡宮～
銭洗い弁天～鎌倉大仏～長谷駅(江ノ電)～鎌倉駅。のんびり約5時間のコース。

締 切 2月15日

担 当 三木雄三

第2回 雪山登山 冬の北八ヶ岳の天狗岳山



第二回の冬山として、北八ヶ岳の天狗岳(2645.8m)に登ります。通常、縦走路にある東天狗岳をさすようですが、三角点はそこからわずかに西に離れた西天狗岳にあります。日本200名山でもあるので、ご期待ください。

期 日:2013年3月9日(土)～10日(日)

日 程: 9日 茅野―バス―渋の湯―黒百合ヒュッテ(泊)

10日 黒百合ヒュッテ―中山峠―東天狗岳―西天狗岳―東天狗岳―中山峠―
渋の湯―バス―茅野

担 当:岩尾 富士夫

参加ご希望のかたは、連絡をください。詳細は改めてご連絡いたします。

第六回 栃木・千葉・茨城 三支部合同懇談会のお知らせ

下記の通り、第六回栃木・千葉・茨城三支部合同懇談会を開催いたします。
ぜひ、ご参加くださいますよう、支部会員の皆様にご案内をお願いいたします。

記

1. 期 日:2013年2月2日(土)-3日(日) 1泊2日
2. 場 所:リバーサイド奥久慈「福寿荘」
茨城県久慈郡太子町池田 2694、TEL:0295-72-0580
3. 参加費:13,000円
4. 日 程:
 - *2月2日(土) 13:30 受付開始、太子町中央公民館(福寿荘の北隣り)
TEL:0295-72-1148
 - 14:00 星埜由尚茨城支部長の講話
各支部活動報告
 - 16:00 福寿荘チェックイン、入浴など
 - 17:30 懇親会
 - *2月3日(日) ☆早朝、福寿荘前の久慈川で冬の風物詩「しが」を見物
 - 8:00 朝食
 - 9:00 出発(袋田温泉の太子町無料第二駐車場へ移動)
 - 9:30 A:生瀬富士登山(往復2時間半)
 - B:袋田の滝見物、国寿石太子硯工房「^{たいざん}岱山」見学
 - 12時 昼食(駐車場付近の食堂で温かい蕎麦を頂きます)
 - 13時 解散
5. 備 考:各支部の参加人数は、12月末までにお知らせください。
※担当幹事:【茨城支部】浅野勝己、酒井國光、高木康雄、西川元禧、山田 明、
山本幸生、

以上

● 編集後記

早いもので今年も残りわずか 今年3月に3支部懇談会 10月には全国支部懇談会と千葉支部にとって2つの大きなイベントがあった 特に全国支部懇談会では、全国から会員が千葉に集まり、雄大な九十九里浜 笠森の分水嶺を歩いてもらった。支部懇の成功は会員会友が一丸となったからだと思う。この団結力を千葉支部の発展に繋げて行こう!

(結城純一)